

目指せエコレンジャー！ 岡崎市緑丘保育園（愛知県岡崎市）

ねらい：ゴミの分別の仕方を知り、自分たちにできることをする。

岡崎市の環境部の方より、エコプロジェクトの一つとして、ゴミの分別の仕方、リサイクルについてゲームを交え、話を聞く。



ゴミにはマークがたくさんあることを知る。

お菓子の袋やペットボトル、空き缶など様々なゴミにマークがどこについているか探し、分別する。



給食の時に出てくるチーズの袋を見て、「ここにマークついてる！」「このマーク僕が食べた事のあるお菓子の袋のマークと一緒にだね！」という声が聞かれたりし、子どもたちから意識してマークを見るようになる。

ゴミには、人間が落とした落し物（空き缶やお菓子の袋などのゴミ）と、自然が落とした落し物（落ち葉など）があることを知る。

日常の会話に、ゴミの話題が出る。



六斗目川に入って遊んだ時に、葉っぱを拾い「これは自然の落し物だ！」お菓子の袋を拾い「これは人間の落し物だ！」と言う子どもがいる。

ゴミをただ捨てるのではなく、分別し、リサイクルすることで、ペットボトルが服に変わったり、菓子箱などがノートに変わったりすることを知る。

ゴミを捨てると町が汚くなること、「自分だけなら良い」という思いをみんながしていたらどうなるかを知る。

町をきれいにしようという紙芝居（環境部の方と、保育園職員とが一緒になって作ったもの）を見る。



六斗目川周辺に散歩に出かけた時に、ゴミが落ちているのを子どもが見つかり、「町が汚くなっちゃう」「ゴミ拾おう！」と言って、子どもたちからゴミを拾う姿が見られた。



自分たちにできることを知る、考える。

運動会の中で、エコレンジャーになってゴミを分別する競技を行う。（父親が「自分はこんなにできない」と感心するほど上手くできる。）



自信をもって分別活動をする。

<考察> 今回のエコプロジェクトに参加し、ゴミに対する子どもたちの意識が高まったように思う。参加後、散歩に出かけると以前は聞かれなかった声、ゴミが落ちているのを見ると、「町が汚くなっちゃう！」という声が聞かれるようになった。子どもに伝えるのも大切だが、まず私達大人が気をつけていかなければいけないと思った。保護者の方にもっと詳しく子どもたちがどんな活動をしていたのかを伝える必要がある。

みどころ

子どもたちは目の前の出来事や状況を素直に感じたり、どのようにかわるか考えたりして、主体的に遊びや生活を進めます。そのため、「ゴミ」を意識するような経験を重ねたことで、「ゴミを片付ける」「身近な場所（環境）をきれいにする」「ゴミを分別する」ということが、特別のことではなく「自分たちにできるよりよい活動」となり、心情や態度の育ちとして表れています。子どもたちにとって、家や園だけでなく、町や川など身近な環境も大切な場であり、「自分たちも大切にできる場である」ことを学んでいます。